

第5回湖西市立学校教育施設適正化検討委員会記録 概要

- 1 日 時 令和4年1月17日(月) 14時00分～15時30分
- 2 場 所 西部地域センター
- 3 出席者 島田桂吾、袴田雄司、疋田貴之、板倉福男、鈴木誓子、杉浦よしみ、西川睦弘、黒柳孝江、新美留美、鈴木聖慈

4 概 要

望ましい学校規模に近づけるための手法として、統廃合や小中一貫といった適正配置が効果的であると考え、具体的な方法や報告書の記載内容について話し合いを行った。最終である第6回において、報告書の内容を検討することが確認された。

5 協議における主な意見

○適正配置の具体的な手法について

- ・知波田小、東小、更に湖西中で、3校が一体の施設で学ぶことができるようにし、他のエリアの方々が羨むような校舎を作って、あそこだったら通わせたいという声が出るようにする。そうなった時に、隣接する鷺津中、岡崎中で湖西中に近いところの子どもたちが、そちらに通うことができるようにする。そういった方法の方が地域の方の理解が得られる可能性が高いように感じる。間違っても湖西中の人が減ったので、岡崎中に通うようにするという考えはするべきではない。
- ・白須賀という地域の地理的な特性や、小学校と中学校でのニーズの違いなども考える必要がある。例えば、白須賀小中の一体型をつくり、付加価値として特別支援学級を特化させる。小学校はそのまま、中学校ではそれぞれに分かれるなど、そういうことを例としておきながら、それを含めて白須賀中学校区の方々と、議論を深めながら、検討していくことが必要ではないか。
- ・学校が地域から無くなることで、その地域が衰退することも心配される。地域という枠を今までよりも、さらに広い枠で考えていかないと子どもたちの人数が減ってってしまう。自治会などで携わって、この地域を担ってきているという思いを持った方々の気持ちも大事にしなければいけない。それだけでなく、今後子育てをする世代、今の子どもが、やがて親になった世代、その時にどうなっているかということもイメージしないと、学校は残ったけれども、人数も少ない、修繕もできない、そういうことも起こってくると考えられる。だからこそエリアを拡大して地域として夢を語っていけるような学校をつくっていくことが必要である。
- ・中学校では、部活動の選択肢が多くあることも子どもたちにとって、大切なことではないか。
- ・地域の方に理解をしていただく期間も必要である。現在、地域の方の協力によって、質の高い教育が行われている。地域の方の意見は大切にしていきたい。
- ・白須賀地区や知波田地区に、子育て世代が住みたくなるような施策も必要ではないかと思う。